

表5 オオクサキビ及びヒエの収量性

(昭和57年)

草種	品種または系統名	播種月.日	移植月.日	刈取り月.日	刈取りステージ	刈取り時草丈(cm)	乾物収量(kg/a)	乾物率(%)	試験場所備考
オオクサキビ	千葉系	5. 12	6. 24	10. 4	完熟期	(175)	125.1	26.1	岩手畜試
	真岡系	"	"	"	糊熟期	(141)	136.0	19.3	湛水移植
	香川系	"	"	"	出穂始	138	55.3	18.7	
ヒ	エ 赤ひえ	5. 12	6. 24	10. 4	糊熟後期	(159)	147.8	29.1	
	飛驒在来	"	"	"	糊熟期	(144)	169.2	31.7	
オオクサキビ	川合系	5. 17	6. 7	10. 6	黄熟期	152	153.9	21.0	宮城畜試
ヒ	エ グリーンミレット 中生	5. 28	6. 15	10. 5	"	155	115.4	33.0	湛水移植

注. 刈取り時草丈の欄の()内は稈長。

が必要である(表5)。

まとめ

以上、作付体系等について述べたが、各自利用用途に応じ作付体系を考えればよい。ただ連作害、病虫害を考えれば各体系の組み合わせが最良であり、更に根菜類を組み込むことも考えられる。特に寒冷地では、気象変動が大きく、作物の収量を

不安定にさせているが、周年作付、それらを組み合わせることで、収量の変動を小さくすることが出来るし、農作業の分散化にもなる。また麦類については、ライ麦は大麦に比べ

て、雪害ばかりでなく凍上害にも強いので、それらの発生の恐れのあるところでは、トウモロコシ-ライ麦体系の方が安全性が高い。

最後に、今後寒冷地に適した草種・品種の開発、栽培方法等問題は残っているが、寒冷地における転換畑の飼料生産及び自給率の向上の一考になれば幸いである。

西南暖地におけるスイートコーンの栽培事例

〈バイカラー品種「ララミー83」・「ララミー85」の栽培評価を中心に〉

雪印種苗株 宮崎試験地

七澤和洋

1 はじめに

九州地方は、その温暖な気候を活用した野菜の施設利用による前進栽培がポピュラーとなっています。しかし、スイートコーンに限れば、中心は露地栽培であり、促成栽培は宮崎県をはじめとする西南暖地の一部に限られています。

宮崎県は典型的なスイートコーン早出し地帯で、沖縄を除く九州7県の中では最大の面積を誇っており、主な産地は西都市、高鍋町、田野町、都城、串間市、日南市等で一部を除き、いずれも海岸線に近く、冬場に無加温で施設利用ができる有

利性を100%生かし、促成～早熟栽培が行われています。

一方、鹿児島県では早出しについては離島方面(徳之島、喜界島等)の占める割合が高く、本土では薩摩半島方面で早熟栽培、他地方は普通栽培が主体となっています。早熟栽培の中心は喜入町で、ほとんどここに集中しています。

そこで、宮崎県のスイートコーンの中心の西都市、鹿児島県の中心、喜入町に焦点をしぼり、弊社のスイートコーン品種「ララミー83」・「ララミー85」についての主力作型における評価も含め、その概要を紹介させていただきます。

2 西都市の現状

スイートコーンの作付は約 220 ha で、宮崎県全体の 90% 近くを占める大産地で、220 ha の内の 80% 以上が何らかの施設を用いた早熟栽培となっています。

作型については、西南暖地の有利性を生かし、しかも他の大産地との競合を避けるための配慮が

表1 西都市におけるスイートコーンの主要作型

月 旬	1	2	3	4	5	6	7
	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
大 型 ハ ウ ス	20~25 ○			△	■		
ミ ニ ハ ウ ス		1~5 ○		△	■		
大 型 ト ン ネ ル		10~15 ○		△		■	
小 型 ト ン ネ ル		○		△		■	
マ ル チ			○	上~中 ○	△		■

○：播種 △：出穂 ■：収穫

表2 播種期および栽植密度

作 型	播 種 期	畦幅	株間	条間	条 数	10a 当り栽植本数
大 型 ハ ウ ス	1月20日~1月25日	600cm	27 27	45 40	2×1 3×2) 8	4,440本
ミ ニ ハ ウ ス	2月1日~2月5日	300	27	45	2×2=4	4,440
大 型 ト ン ネ ル	2月10日~2月15日	200	30	40	3×1=3	4,670
小 型 ト ン ネ ル	2月15日~2月25日	140	27	45	2×1=2	4,440
マ ル チ	3月下旬~4月上旬	140	30	45	2×1=2	4,150

表3 施肥設計

(10a 当り, kg)

肥 料 名	元 肥	追肥①	追肥②	計	備 考																
苦 土 石 灰	80			80	成 分 量																
堆 肥	2,000			2,000																	
石 灰 窒 素	60			60	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>元肥</th> <th>追肥</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>N</td> <td>39.0</td> <td>5.6</td> <td>44.6</td> </tr> <tr> <td>P</td> <td>39.4</td> <td>0</td> <td>39.4</td> </tr> <tr> <td>K</td> <td>22.8</td> <td>6.8</td> <td>29.6</td> </tr> </tbody> </table>		元肥	追肥	計	N	39.0	5.6	44.6	P	39.4	0	39.4	K	22.8	6.8	29.6
	元肥	追肥	計																		
N	39.0	5.6	44.6																		
P	39.4	0	39.4																		
K	22.8	6.8	29.6																		
鶏 糞	600			600																	
B B オール 12	160			160	追肥①はビニール除去時(大型, 小型トンネル)																
B B 追肥 2 号		20	40	60	追肥②は雄穂抽出期																

なされ、具体的には、沖縄の出荷が終る5月より出荷を始め、山梨・千葉の出荷が始まる6月中旬を避けるために、5月中旬~6月中旬に出荷の最盛期がくるような作型が設定されています(表1, 表2, 表3)。

また、水田農業確立対策事業の一環として水田での作付ウエイトが増加し、梅雨による湿害を避けることも作型設定の重要な要素となっています。

品種はバイカラーブームを反映して、全作型をバイカラーで統一しようとの意向でしたが、大型ハウス、ミニハウス(図参照)に適する品種の選定が進まず、今春は、大型トンネル、トンネル、マルチの3作型でバイカラー品種が作付けされました。

3 西都市における問題点

①施設を利用した場合は、1月下旬より播種が始まりますが、春先の強風によってトンネル・ハウスが毎年破損する被害が発生しています。霜による枯死、低温による生育の遅れ等が問題となりますが、適当な打開策がみつからないのが現状のようです。

②スイートコーンを主力作物と位置づける農家が少なく、同時に1~2作物を並行して作付けするケースがほとんどです。そのため、天候等によって他の作物との収穫時期が重なれば、スイートコーンの優先順位を下げる農家もあり、スイートコーン側から見れば、品質低下の原因となりかねない状況

です。

③出荷先は関西・名古屋・関東の20市場に及んでおり、いずれも遠隔地で運送コストが販売価格の12~13%(5kg1ケース当たり190円程度)を占めるに至っています。そのため、市場に近い他の産地に比べて出荷にかかる費用が割高になっており、農家の収入や栽培意欲に少なからぬ影響を与えていると思われます。

④スイートコーンは出荷の最盛期が比較的短く、しかも、一度に1~2万ケースが出荷されるような状況で、予冷施設の整備も難しい状態です。従って、その日の内に収穫から出荷までを終わらせなければならない、箱数が日によってバラついたり、品質の若干の低下等、今後解決しなければならない問題もかかえています。

1. 大型ハウス

4 西都市における「ララミー83」・「ララミー85」の評価

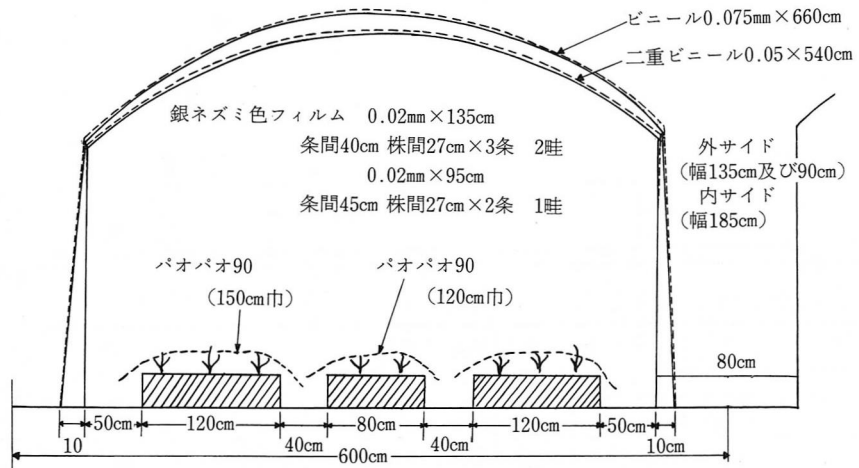
① ララミー83 (早生)

西都市における2月22日播種の大型トンネル栽培では、発芽、初期生育ともに従来のパイカラー品種と比較し群を抜いて優れ、黄色品種と同程度の優れた生育を示しました。しかし、生育が旺盛であるため、トンネル内の換気方法・時期を配慮し、徒長・軟弱

生長を防ぐことがポイントと思われました。いずれにしても「ララミー83」にマッチした栽培技術を各々の作型においてご検討いただき、その優れた特色をプラスの方向へ引出していただければ、ありがたいと思っています。

収穫は従来の早中生品種より確実に3日は早く、1日でも早く出荷できる品種がほしいとの要望にはお応えできたと思っています。

穂については、見た目にはやや細い印象を与えますが、重量があり、2L規格(360g前後、5kgケース14本入)が中心で収穫ができました。先端不稔がほとんどないため選果が容易であり、皮の色が濃く、旗葉も長い等、総じて上々の評価が得られました。



2. ミニハウス

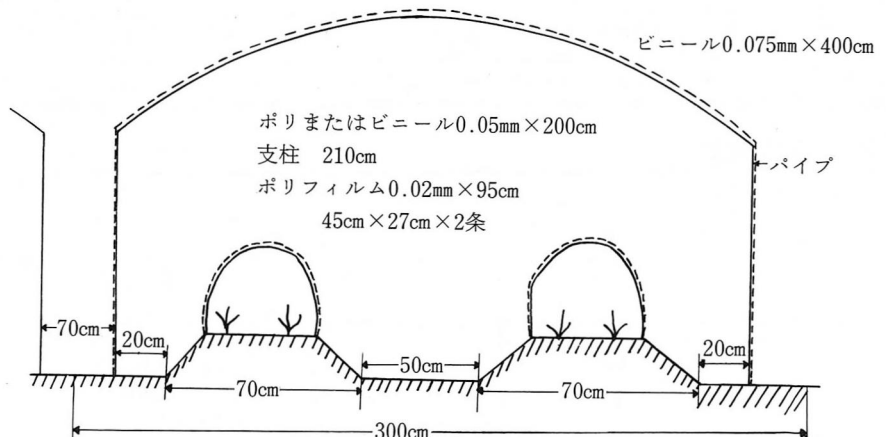


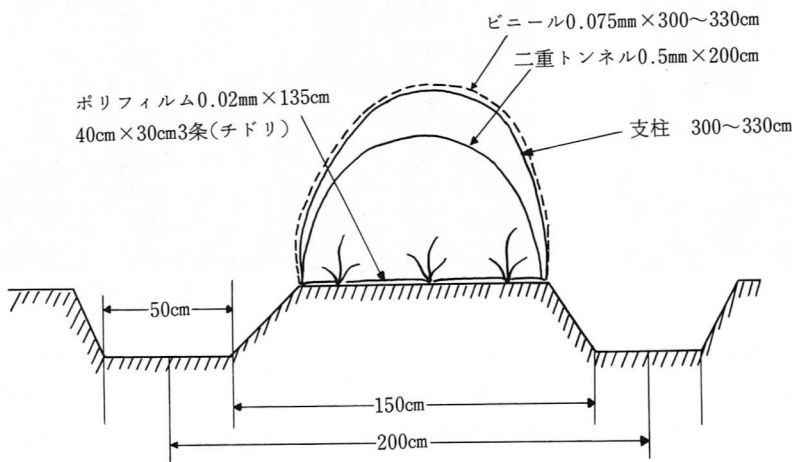
図 スイートコーン栽培施設

生育が旺盛であるため、今まで黄色品種を作付けしていた大型ハウスやミニハウスについて、この「ララミー83」が適応できるのではないかとの評価をいただいております、この作型への導入を生産者の皆さんと一緒に進めてみたいと考えております。

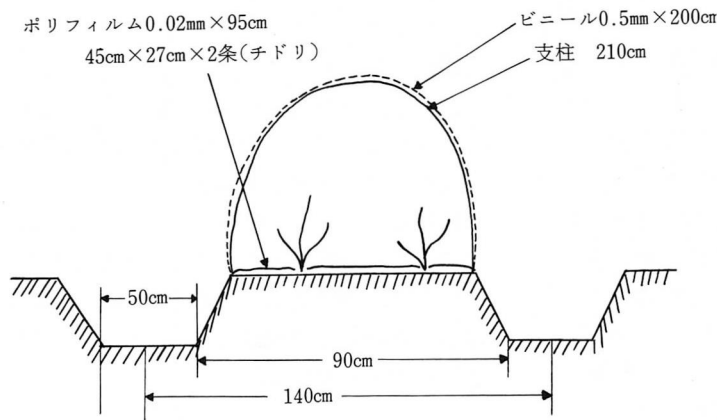
②ララミー85（早中生）

西都市における2月25日播種の小型トンネル栽培では発芽は良好で、その後の生育及び収穫時期は従来より作付けされている品種と比較し、ほとんど差がなく、作りやすいとの評価をいただいております。収穫段階で、「包皮の緑が濃い」、「粒の並びがきれいである」、「ボリューム感がある」、「食味は極めて良い」等々、特に穂に関する評価は上々

3. 大型トンネル



4. トンネル



でした。

5 喜入町の現状

ここ1~2年でスイートコーンの作付けが増加し、本年は約100ha栽培され、すべてバイカラータイプが作付けされています。作型は3月播きのトンネルが40%程度で、他はマルチ栽培が行われています。

スイートコーン栽培圃の大部分が、喜入の石油備蓄基地を見おろす丘の上であり、海側から丘に向って吹き上がってくる風が強く、何等かの防風対策が必要となっています。

トンネル栽培は他の地域と同様に、1株1本立で行われていますが、マルチ栽培は一風変わっており、2粒点播で間引きを一切行わずに収穫を行う方式がとられています。

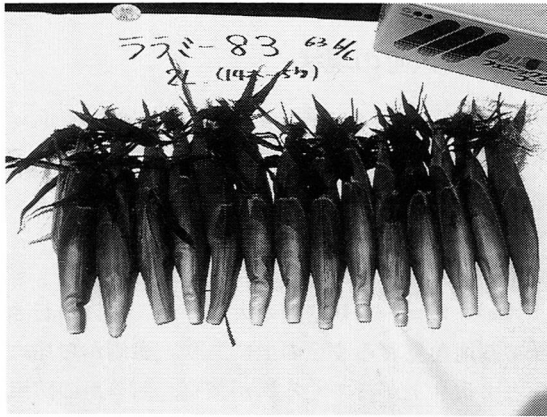
この場合、100%発芽すれば、1本立の倍の本数となり、密植となって穂は小ぶりとなり、出荷本数は増大します。L規格1本150円で4,000本収穫するなら、M規格1本100円でも倍の8,000本収穫した方が収益は多いということで、1本立てを指導してもなかなか切り換わらないとのこと、出荷先は大消費地より地場消費向けが多いようです。

6 喜入町における「ララミー85」の評価

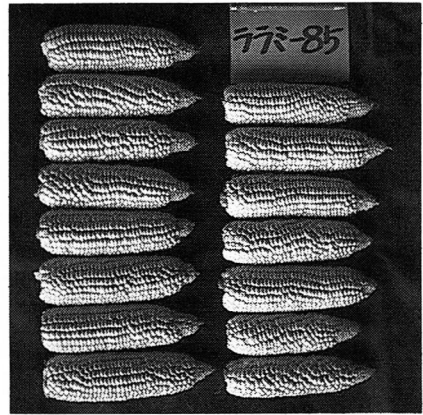
作型はマルチ栽培の2粒点播放任栽培で行われました。

喜入町は他の地域のように、1品種の独占市場ではなく、数種のバイカラーが作付けされています。そのため、他とは異なる特徴が必要となってきます。

「ララミー85」は、西都市同



「ララミー83」の皮付出荷製品



「ララミー85」の剥皮雌穂



「ララミー83」の剥皮雌穂

D



西都市におけるスイートコーン・ミニハウス栽培

様、生育段階では特に顕著に品種間差は認められませんが、概して、揃性が良好で収穫段階では、穂（包皮）の緑が濃いこと、先端の実入りが良いこと、食味が良いこと等で、その評価は上々でした。

7 最後 に

スイートコーンは作付け期間が比較的短く、労働時間も一時期を除けば割合少なく、出荷時期さえ間違えなければ、収益も高い傾向にあります。

しかし、南九州ではスイートコーンと同時に水稲、タバコ、オクラ、ゴボウ等が同時に作付けされて、スイートコーンの後作はダイズ、キュウリ等が作付けされています。それ等の作物はスイートコーンと比較すると収益性が高いケースが多く、スイートコーンの作付意欲や栽培努力もそれ等との相対関係で決まることが多いと思います。

一方、西都市のように市場や中卸業者に名前が知れ渡り、産地として確立されてしまうと、市場側の期待も大きく、魅力がないからと言ってスイートコーンを減らすこともできない状態となってきます。収益性を上げるには、更に前進化して大型ハウス、ミニハウスにバイカラータイプを作付けしていくことが西南暖地の有利性を生かすためにも重要と思われます。

一方、喜入町のようにここ1~2年で大きく成長した産地では、どの作型でも品質と出荷量が安定して行くことがまず重要と思われます。

弊社の「ララミー83」・「ララミー85」は、これ等の条件を十分に満たすことのできる品種力を備えており、今後更に、生産地における幅広い作付け推進と収益性の確保にお役立ていただけることを期待する次第です。